

事故報告書

フルーツ・シャトーよいち

施設長	施設長補佐	援助課長	医務課長	相談員	係長	担当

フガナ	●●●●	男 <input checked="" type="radio"/> 女 <input type="radio"/>	要介護3	移動	<input type="checkbox"/> 独歩 <input checked="" type="checkbox"/> 歩行器 <input type="checkbox"/> 杖歩行 <input type="checkbox"/> 車椅子 <input type="checkbox"/> その他 ()
本人氏名	●●●●●●	様	91 歳		
報告者	●●●●			発生(発見)日時	平成25年09月03日(火) 02:00 分頃

場所	<input checked="" type="checkbox"/> 居室 <input type="checkbox"/> ホール <input type="checkbox"/> 浴室 <input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> 拠点フロア <input type="checkbox"/> 廊下 <input type="checkbox"/> 階段 <input type="checkbox"/> 屋外 <input type="checkbox"/> 送迎車内 <input type="checkbox"/> その他 (居室扉付近)
----	---

	<input checked="" type="checkbox"/> 転倒 <input type="checkbox"/> 転落 <input type="checkbox"/> 誤食 <input type="checkbox"/> 誤嚥 <input type="checkbox"/> 誤薬 <input type="checkbox"/> トラブル <input type="checkbox"/> 単独外出 <input type="checkbox"/> 介護中 <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> その他 ()
--	---

状況

6:50頃、早番が挨拶に向かった際に、本人より「夜中に転んだ」との話しあり。確認した所、深夜2時頃にベッドで端座位の状態から、2メートルほど離れた歩行器に移ろうとした際に、左側を下にして床に倒れたとの事。

(施設内連絡)

07:40 ●●●●援助員より援助課長へ口頭にて転倒の件を報告する。
 08:30 ●●●●援助員より●●●●主任看護師へ電話にて転倒の件を報告する。
 09:30 ●●●●援助員より施設長へ口頭にて転倒の件を報告する。
 09:50 ●●●●援助員より施設長補佐へ口頭にて転倒の件を報告する。
 12:30 ●●●●援助員より施設長へ口頭にて骨折の件を報告する。
 12:35 ●●●●援助員より施設長補佐へ口頭にて骨折の件を報告する。

症状	<input type="checkbox"/> 無傷 <input type="checkbox"/> 表皮剥離 <input type="checkbox"/> 擦過 <input type="checkbox"/> 切傷 <input type="checkbox"/> 内出血 <input type="checkbox"/> 火傷 <input type="checkbox"/> 腫れ <input type="checkbox"/> 変色 <input type="checkbox"/> 熱感 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (骨折・痛み)	部位	左肋骨 (骨折) 左足指 (痛み)
朝の時点では立ち上がり、歩行の際に痛みを感じるも、普段通りの動きに支障はない様子。本人の希望により、腰痛用の軟膏を塗布する際に状態観察をするが、腫れや変色は確認できず。			

対応

様子観察 湿布 冷却 吐かせる 吸引 止血 受診 その他 (本人の腰痛用インドメタシン塗布)

軟膏塗布後にベッド上にて休んで頂き、立ち上がる際には援助員を呼んで頂く様にお伝えする。また、援助課長の指示により、排泄の負担を減らす為に普段よりも大きい目のパットを使用して頂く。
 看護師による状態観察の結果、受診の必要ありとの判断である為、車椅子対応にて●●●●病院へお連れする。胸部レントゲンの結果、肋骨7、8、9の骨折との診断。バストバンド装着。加ナール1日朝、夕2錠服用、14日分。インドメタシン湿布30枚処方。症状改善されない場合には、再度受診の指示ありとの事。
 受診後もご自身で立ち上がり、排泄等の用事を済まされる為、その度にナースコールを押して頂ける様に促す。

バイタルサイン	体温	36.3 °C	血圧	156 / 88 mmHg	脈拍	81 回/分	SP02	%	計測時間	07:00
---------	----	---------	----	---------------	----	--------	------	---	------	-------

要因・原因

見守り不足 知識・技術不足 ルール不遵守 情報不足 環境・設備 設備・点検不足 人為的問題
その他 ()

ベッドから立ち上がり、2メートルほど離れた歩行器の所まで向かおうとした際に、躓いた左足の指を挫く形で転倒されたと見られる。
 居室内では伝え歩きをしておられる為、歩行器までの距離が遠い分だけ体勢を崩しやすい環境であった。
 ご本人の今までの傾向からは何度職員が歩行器使用を促すも、居室内では使用していただけない状況が見られていた。

※自立者のため、状態回復後はフリーとする。

事故防止対策

足側に設置してあったサイドレールを頭側に移動し、歩行器を足元に停めておける様にご本人に提案する事で、支えが無いまま歩いてしまう状況を防ぐようにする。ベッドの足元に歩行器を置いて貰える様、繰り返し本人に伝えていく。
 《9月10日グループ会議にて、状態が回復するまでの対応として》
 トイレへ向かった際は見守りを行い、排泄後はスムーズに歩行器が使用できるよう、歩行器の向きを向かう方向に設置する。また、居室へ戻る際も見守りを行い、歩行器が足元に停める事の確認も行う。
 常に歩行器使用の声掛けを継続する。
 夜間帯はポータブルトイレを使用するため、夜勤者は決められた位置へポータブルトイレの設置を行う。

加ナールの必要性について 不要 必要

家族への説明	平成25年09月03日(火)	説明方法	<input type="checkbox"/> 面会 <input checked="" type="checkbox"/> 電話	説明職員	1回目●●●●援助員 2回目●●●●係長	
	家族氏名	●●●●●●氏			続柄	義弟
	08:50 ●●●●援助員より電話にて事故の件を説明し謝罪する。ご家族より「こちらこそ申し訳ありません。これから向かわせて頂きます」との返答を頂く。 12:40 ●●●●援助係長より電話にて骨折の件を説明し謝罪する。ご家族より「わかりました。また後から向かいます」との返答を頂く。					